広報 あさぎり

12月15日
No.204

発行所 麻生町1561－9
発行人 電話②0811㈹
印刷所

麻生町役場
小沼幸蔵
麻生印刷

〈人口〉

男	8,891人
女	9,134人
計	18,025人
世帯数	3,872戸

12月のメモ

1日 消防団秋季点検
5日 ママさんバレーボール大会
13日 環境保全町民会議設立総会
15日 消防団役員会
16日 町議会定例会
16～17日 青年団体指導者研修会
17日 婦人議会
青少年問題協議会
20日 交通事故相談
交通対策協議会
農業委員会
青年議会
24・25日 町県民税・国保税徴収
28日 御用納め

よりよい家庭にするために

「老人との話し合い」

大和婦人学級

大和婦人学級（学級長一村ふみ　篭田）では、「よりよい家庭にするために」、八月九日に行なった親と子の対話学習に続いて、十一月十九日老人との対話学習を蔵川の宝泉寺で行ないました。

大和婦人学級は、国と県、町から年六万円の運営費を補助されて家施しているもので学級生は七十人、年八回、二十一時間以上の学習をします。

学習の内容は、「健康管理」「家庭内での子供教育」「老人との話し合い」「町議会傍聴」「礼儀作法」「料理」などで、家庭の中心であるおかあさんらしく、どうしたらよりよい家庭になるか、が学習の大きな柱になっています。

今回おこなわれた老人との話し合いは、守孝日本健康生活協会々長をまじえ、なごやかに行なわれ、その中に「年よりがあきらめている。働きすぎる」「昔どおり姑には気を使っている。嫁の悪口を他人に言う」など、少し不満が出ましたが、家庭をまるく治めるということから、お互いにゆずりあい、これということなく円満にいっている家庭がほとんどのようです。

心配なのは、少数ですが、不和の家庭もあり、このような家庭からは、今回のような対話学習には、なかなか出席しないこと。これからは、このような人にも出席してもらうようみんなで呼びかけようということになりました。

対話学習は、結果を重じるよりも、このような機会をつくったこと、ふだん、家庭内だけでは、話せないようなことを少しでも口に出したことは、有意義だったと思います。

話し合いの場を多くもつことが、明るい家庭を築く基になるでしょう。

▲せまいながらも楽しいふんいき、守先生も例を上げての指導をしてくれた。

◀おかあさんも、身近かの問題だけに、耳をたむける姿から、その熱心さがわかる。

歳末

たすけあい運動

12月1日～31日

歳末たすけあい運動は、ふるい教会などを中心に行なわれていたものですが、広く一般に呼びかけるようになったのは明治四十一年に救世軍が行なった「慈善鍋」が最初であるといわれています。

この歳末たすけあい運動は十月一日から十二月三十一日までの三か月にわたって行なわれる共同募金の一環として十二月に重点的に行なわれてきました。

この運動の目的は、みんなそろって明るい正月を迎えるために行なうもので、全国的に展開されています。

このたすけあい運動については、全国の放送網を通じてNHKが国民に呼びかけ、全国の郵便局、NHK、共同募金会の窓口を通じて義援金の受け入れを行ない。町では、婦人会員の方が積極的に部落の人に　びかけていますのでご協力ください。

歳末たすけあい運動によって集められた善意は、地域の恵まれない人々が少しでも明るいお正月が迎えられるよう社会福祉協議会を通じて年末の越年資金やお年玉、お見舞のほか、下着類や学用品、餅毛布などがおくられています。

〔善〕〔意〕

五町田の高野義一さんは、行方幼稚園へ金魚三十匹を贈りました。

善意銀行へ次のかたが預託されました。

新宮の平塚武男さんは、大和第一小学校へ、ひごい一匹まごい四匹。

麻生町青年同志会は、麻生幼稚園外四幼稚園へ、生花カーネーション百本。

小高老人クラブ朋友会は、困っている人へ千二百円。

白浜の小沢孝一さんは、白浜老人クラブへ三千円。白浜子供会へ二千円、白浜和讃会へ二千円。

白浜の小沢城夫さんは、白浜老人クラブへ千円。

矢幡老人クラブ長寿会は、太田小学校へ竹ホーキ二十本ぞうきん百本。

粗毛老人クラブ寿会は、困っている人へ千五百七円。

新しい日記帳

去年の暮に、来年こそは…と決心して買った日記帳ですが、その後、つづけて書いているかどうか、ちょっと反省をこめてめくってみましょう。

だからいわないことじゃありません。案の定、三日坊主というかたが多いようです。何も書くことがない暮し、それは生活が健康である証拠ともいえましょうか。日記は自分の記録であり、反省の材料になるものです。しいていえば家庭の歴史ともいえましょう。ですから、毎日なにか書かなければならないと思って心の負担にしてしまうことはありません。「何も書くことなし」という日もあっていいわけです。何とかうまい文章で、心の記録をとっておこうとするからむずかしくなるわけです。

家計簿

毎日、家計簿をつけていて「こう物の値段が上がってたりないたりないでは、恐ろしくなってつける気力もなくなります」とある主婦はこぼしていました。物価もとくに食料品の値上がりは直接家計に響きます。

去年の今ごろなら、これだけ持って出て買物をすれば、今夜だけでなく、あしたの朝と昼、それに夜のたしになるほど買えたものが、八百屋さんの店先で予定の半分以上が消えてしまう。魚屋さんにしても肉屋さんにしても、思ったほど買えないし……と。

どう苦面しても家計のワクは決まっています。それを毎日書きつづけることは確かに苦痛でもあり、何とか帳ジリを合わせようと必死になる姿は悲壮ともいえますが、そこを切りぬけるのが家計をあずかる主婦の腕の見せどころです。

新しい郵便番号簿は受け取りましたか

日本で郵便番号制度を取り入れてから、今年で満三年になりました。郵便番号制は、郵便近代化えの一環として行なわれ、郵便番号を書いていただくことにより、機械化はもちろん、手区分による場合にも能率的で郵便のスピードアップとなります。

せっかく記入した番号も、誤りであったり、不明りょうなものであると、間違った配達局へ送られてしまい、郵便が遅れる原因となります。

郵便番号を記入するときはうろおぼえでは書かないでください。先方からの手紙や住所録、郵便番号簿などをみて正確にはっきりと記入してください。

また、郵便を出すときには自分の住所の郵便番号も忘れずに書くようにしましょう。

郵便物に差し出し人の郵便番号が記入してあると、返信の際にたいへん便利です。

新しい郵便番号簿は、郵便局で無料で配布しています。まだ届かない場合、または新しく当町へ転入した人は、受け持ちの集配郵便局へ連絡してください。すぐお届けします。

歩行者の安全を確保

道路交通法改正される

本年十二月一日から施行

自動車の急激な増加とこれにともなう交通事故、交通混雑、交通公害の対策として、道路交通法の一部が改正され十二月一日から施行されています。

道路交通法は、運転者だけではなく、こどもから老人まですべての人に関係がありますので、特に歩行者の安全確保について改正されたあらましをお知らせします。

車両の通行を禁止した道路

買物客や通学児童など歩行者の安全を図るため車両の通行を禁止した歩行者用道路では、歩行者は、車道通行など道路を自由に歩くことができます。

車両は警察署長の許可を受けた場合など、特定な場合しか通行できず、この時は特に注意して除行しなければなりません。

白ペイントで路線帯を表示

歩車道の区別のない道路では、白ペイントで車道外側線を設け、この外側を路側帯として歩行者の歩く部分とし、歩くのに十分な幅員がある場合には歩道と同じ扱いをすることになりました。

車両は路側帯を通行できませんが、駐車や停車をするときは、路側帯に入れます。この場合ペイントによる標示のしかたによって駐停車が禁止されることがあります。なお自動車の通行についても駐停車の場合と同じです。

横断歩道では歩行者の確認を

▼歩行者のわきを通過する車両は、歩行者との間に安全な間隔を保つか、徐行しなければなりません。

▼横断歩道に接近する車両などは、横断しょうとする歩行者がいないことが明らかな場合以外は、その横断歩道の直前で停止できるような速度で進行しなければなりません。

また横断歩道の直前で停止している車両があり、そのわきを通行しようとする場合はその前方に出る前に一時停止しなければなりません。

自転車を押して歩くと歩行者と同じ右側を

自動二輪車、二輪の原動機付自転車を押して歩くときは歩行者として扱われます。

歩行者は、がけなどがあるため道路の右側を通行することが危険な場合、その他やむを得ない場合には道路の左端を通行することができます。

横断歩道上の歩行者の安全を守るため、横断歩道の前後五メートルが駐停車禁示となりました。

消防ポンプ操法大会

火災シーズンを前に接戦

麻生町消防団では、冬の火災シーズンを前にしての秋季点検と兼ねて、第三回消防ポンプ操法競技大会を、十二月一日、麻生中学校庭で盛会に行なわれました。

競技会に参加したのは、小型動力ポンプ三十六台、自動車ポンプ三台、昨年を上まわる高点数で接戦がくりひろげられ、次のとおり入賞が決まりました。

〔小型動力ポンプの部〕
一位　第六分団第一部　青沼
二位　第二分団第二部　下渕
三位　第一分団第三部　宿
〔自動車ポンプの部〕
一位　本部分団第二部
二位　第三分団第三部　富田

大野村の電話が自動ダイヤル化

鹿島郡大野局の電話が、十二月十日からダイヤル直通でかけられます。

これに伴い電話番号がかわりますから、番号を確めてからかけてください。番号がわからないときは、一〇四番へたずねてください。

大野局の市外局番は、〇二九九六、市内局番は、九です。

念願の乳牛共進会

町から二十頭出品　十一月七日

麻生町酪農組合で多年の念願とされていた乳牛共進会が利根酪農協同組との共催により十一月七日、町民グランドにおいて開催されました。

この共進会には、近隣の町村からも多数出され、麻生町からは二十頭を出品、これからの酪農経営に大きな前進がなされました。麻生町から出品したうち、上位入賞者は次のとおりです。

〔育成牛の部〕
二等　平塚　源久（新宮）
二等　大野　剛（島並）
〔未経産牛の部〕
一等　荒張好之進（麻生）
一等　平塚　昭（新宮）
二等　大原　松男（宇崎）
〔経産牛の部〕
優等　箕輪　長衛（宇崎）
一等　仲野　進（島並）
一等　平塚　昭（新宮）
二等　貝塚　嘉助（麻生）
二等　山本　忠造（〃）
二等　久保田四郎（四鹿）

県の共進会では

優等に石神正雄さん

茨城県畜産農協主催による肉牛共進会が、十一月二十六二十七日の二日間にわたって石岡市家畜市場でおこなわれ県内各地から七十四頭出品されました。麻生町からは三頭を出品、次のとおりいずれも上位に入賞しました。

優等　石神　正雄（麻生）
一等　箕輪伊佐男（宇崎）
三等　宮内　周蔵（岡）

第一回親善卓球大会

麻中体育館で熱戦

十一月十三日の「県民の日」に、第一回麻生町親善卓球大会が麻生中学校体育館で行なわれました。

この大会は、スポーツを通じて町民相互の親睦を深め健全な精神と健康な体力の増進をはかり、明るく住みよい職場、町づくりをしようとするもので、一般の部と中学生の部にわかれ、団体戦、個人戦にと第一回大会にふさわしく熱戦がくりひろげられました。

成績は次のとおりです。

〔一般の部団体戦〕
優　勝　朝日生命
準優勝　役場A
三　位　農業共済組合
〃　教職員
〔一般の部個人戦〕
（男子四十歳以上）
優　勝　樽見義雄
準優勝　平山光夫
三　位　内田幸男
男子四十歳未満）
優　勝　永久幸司
準優勝　伊藤久男
三　位　飯田　貢
（女子四十歳未満）
優　勝　小松本喜美子
準優勝　石川直枝
三　位　桑島恭子
〔中学の部団体戦〕
優　勝　麻生A
準優勝　麻生B
〔中学の部個人戦〕
（男子）
優　勝　吉崎和男
準優勝　箕輪一博
三　位　岡部良夫
（女子）
優　勝　椎名一枝
準優勝　太田喜美子
三　位　根本由美子

PTAソフト

太田小チーム優勝

ふだん運動不足がちのおとうさんに、秋の一日をソフトボールで楽しんでいただきながら、健康な体づくりをしようと十一月二十一日の日曜日麻生中学校グランドでPTAソフトボール大会が行なわれました。

参加したチームは、小学校七、中学校二チームの総数九チームで、なれないボールに珍プレーや学生時代を思い出してのファインプレーと楽しい一日を過ごしました。成績は次のとおりです。

○優　勝　太田小PTA
準優勝　麻生小PTA
三　位　麻生中PTA

戸籍の窓口

〈おめでた〉
岡里千代子　碵　恭　粗　毛
小沼　朋子　昭　信　麻　生
永作美奈子　実　〃
柳町　隆　七　郎　〃

〈おくやみ〉
大川　稔　勝　麻　生
村木　巌　うめ　〃
田山三重郎　正　吾　〃
辺田　ツネ　忠　治　石　神
橋本　さた　孝　一　於　下
根本　光　清　次　行　方
大里　重助　サ　タ　島　並
高野　勝衛　きぬ　南
小牧　仁平　欣　吾　小　高
永作　しん　橋　門
荒張　こう　小沢孝一　白　浜
藤崎　まさ　英　雄　新　宮

麻生町産業文化祭短歌会

互選の部入選歌

まろみもつ鴨らの胸がわけてゆく　大洋村　小沼　俊平
水尾すがすがと湖にひろがる
中風の身にわく愁やらはんと　玉里村　久坂　運平
ひとり庭べに藁などをほす
蚕飼ひ疲れの出でしならむか桑曳きて　茨城町　大野　利勝
かよふ野みちの石につまづく
人気なき雨の舗道を巾広く　小川町　永作喜代子
照らしてをりぬ通夜の灯
ひきとめし末子も遂に家出でぬ　麻生町　箕輪徳二郎
虚うな妻といも畑に佇つ
言葉練りつつ訪ね当てたる玄関に　玉造町　並木　乃婦
意志持つ如き錠さされいつ
面映ゆく受ける長寿の紫蒲団　牛堀町　布施耕一郎
行李一つで嫁がせし娘に
生きしまま棒杭となる樹が立てり　大野村　出頭　寛一
有刺鉄線うちつけられて

あそうの農業

(15) 金魚養殖

魚類の養殖といえば、一般的には、水産業とされていますが、現在金魚養殖については、農業の一環とされています。

金魚の養殖が麻生町に取り入れられたのは、今から六年前に、五町田の竹石さんが、真珠貝の養殖池を利用して始めたもので、まだ日が浅く、養殖農家数も少しですが、昨年度行なわれ米生産調整にともなう稲作転換事業で大きく伸びています。

現在は、五町田地区を中心に約五ヘクタールの水田に養殖が行なわれ、収益は、十アールあたり約四十万円前後となっています。金魚の養殖技術としては、ツユ時の酸素不足などに注意するほかは特に問題はありませんが、「今後近代的農業の一環として発展するには、販売面に対する研究が必要であり、養殖組合を中心とした組合体形による流通の確立にある」といわれます。

いずれにしろ、霞ケ浦における漁業不振や米の生産調整などを考えてみますと、今後は町の主要作目として発展することでしょう。

五町田の竹石毅一さんは、金魚の養殖で好成績を上げている。